

瑞穂公園マスタープラン

～整備・運営の基本的な考え方～

令和2年7月

名古屋市スポーツ市民局

目次

1 計画策定にあたって	
(1) 計画策定の趣旨	P1
(2) 計画の位置づけ	P1
(3) 計画期間	P1
2 瑞穂公園を取り巻く状況	
(1) 公園行政の動向	P2
(2) アジア競技大会を契機としたまちづくり	P2
(3) 瑞穂公園の現状	P3
(4) 瑞穂公園の特徴と課題	P4
(5) 瑞穂公園に期待される役割	P5
(6) 瑞穂公園整備の方向性	P6
3 瑞穂公園整備の考え方	
(1) 整備イメージ	P7
(2) まちづくりの取組み	P11
(3) 公園整備のための行政手続き等	P12
(4) 公園整備・運営の手法	P12

(1) 計画策定の趣旨

瑞穂公園は都市公園として緑豊かな自然に恵まれた総面積約24haの運動公園である。陸上競技場をはじめ、ラグビー場、野球場、テニスコート等の各種スポーツ施設が設置され、陸上競技場は令和8年の第20回アジア競技大会のメイン会場となることが予定されている。また、山崎川と合わせて都市の中のまとまりある緑の拠点としての機能も有し、敷地内には国指定の史跡が所在する。「瑞穂公園マスタープラン」は、このような瑞穂公園のもつ多面的価値を高め、市民生活の充実に寄与する公園のあり方と、それを実現していくための公園全体の整備・運営にかかる基本的な方針を定めることを目的とする。

(2) 計画の位置づけ

「名古屋市総合計画」と整合する名古屋市の上位関連計画に従って策定する。特に瑞穂公園に関連する個別計画をふまえて、「スポーツ」「交流・憩い」「自然環境」「歴史文化」の4つの視点を重視しながら検討を行う。

名古屋市総合計画2023

なごや緑の基本計画2020

二級河川山崎川水系
河川整備計画

名古屋市地域防災計画

名古屋市アセットマネジメント
推進プラン名古屋市公園経営
基本方針

スポーツ

交流・憩い

自然環境

歴史文化

名古屋市スポーツ
推進計画史跡大曲輪貝塚
保存活用計画

瑞穂公園マスタープラン

●名古屋市総合計画2023

- ◆ アジア競技大会開催に向けた瑞穂公園全体の整備：名古屋市のスポーツ振興の拠点、市民の憩いの場、地域防災拠点の機能
- ◆ 緑が本来持つ様々な機能の発揮
- ◆ 公園の魅力、利便性を向上させ、利活用を促進

●名古屋市スポーツ推進計画

- ◆ トップスポーツチームの試合観戦等、「みる」スポーツの充実
- ◆ 大規模な国内外競技大会等誘致・開催
- ◆ 拠点となるスポーツ施設の整備（瑞穂公園陸上競技場・体育館）
- ◆ 多様なニーズに即した場の提供、スポーツを活かした魅力の創出・発信

●なごや緑の基本計画2020

- ◆ 瑞穂公園は「緑の拠点」、山崎川は「緑の都市軸（河川等）」に指定
- ◆ 運動公園における緑化率の目標30%以上
- ◆ 休憩、散策、スポーツ、遊びといった健康づくり活動や野外レクリエーション、子どもたちの情操教育や環境教育の場となる

●名古屋市公園経営基本方針

- ◆ めざす公園像：①人々をつなぐ公園 ②名古屋の誇りとなる公園 ③人と自然が共生する公園
- ◆ 視点1 みんなが関わり、Win-Winの関係で進める公園
- ◆ 視点2 公園ごとの特色を育て、地域に生かす公園経営
- ◆ 視点3 取り組みの効果をつないで、新しい公園機能を生み出す公園経営

●瑞穂公園管理運営方針（H26.8）

- ◆ めざす公園像：「安全・安心で魅力的な総合運動公園」
- ◆ 市民がより安全・安心に利用でき、多くの市民利用に供する公園
- ◆ 広域避難場所として、災害時に市民がより安全・安心に避難できる公園
- ◆ 全国大会・国際大会の誘致、スポーツを核とした地域の活性化を図る公園

●二級河川山崎川水系 河川整備計画

- ◆ 動植物の生育・生息・繁殖環境に配慮
- ◆ 河床幅を確保し、瀬や淵の形成促進、多様な水辺環境の形成
- ◆ 檀溪の面影を偲ばせる溪流景観の演出、サクラを始めとした並木の再生

●史跡大曲輪貝塚保存活用計画

- ◆ 史跡の価値を正しく、分かりやすく伝え、史跡への理解を増進
- ◆ 史跡指定地の遺構の整備
- ◆ 史跡のガイダンス機能の整備
- ◆ 他の遺跡・文化財との連携、園内や地下鉄駅からの案内機能の充実

●名古屋市地域防災計画

- ◆ 瑞穂公園は、地震の揺れや大規模な火事発生時の指定緊急避難場所（広域避難場所）に指定
- ◆ 公園・緑地として、応急救助の場として活用可能
- ◆ 瑞穂公園には、耐震性防火水槽、ヘリポート、応急給水施設等が整備

●名古屋市アセットマネジメント推進プラン

- ◆ 公共施設の長寿命化の推進、老朽化した建物の応急保全の実施
- ◆ 省エネ等による維持管理コストの縮減
- ◆ 既存施設の活用
- ◆ 民間活力の導入

(3) 計画期間

- ・ 令和2年～令和22年とする。

(1) 公園行政の動向

近年、都市公園に期待されている「多面的機能の発揮」と「官民連携の促進」について、全国的な公園行政の動向を整理した。

公園の多面的機能の発揮と官民連携の加速化

●新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について

- 緑の基本計画等による戦略的な都市再構築、民の広場空間等との連携強化による緑の多機能化、都市公園の配置と機能の再編等による都市の活性化等の施策によって、緑とオープンスペースによる都市のリノベーションを推進する
- 緑とオープンスペースの利活用を活性化するための体制の構築、新たなステージを支える人材の育成・活用、都市公園等の品質を確保・評価する仕組み等、民との効果的な連携のための仕組みを充実させる
- 都市経営の視点からのマネジメント、地域特性やニーズに応じた整備、都市公園の特性に応じた多様な主体による公園運営の推進等の施策によって、より柔軟に都市公園を使いこなすためのプランニングとマネジメントの強化を行う

●都市公園法の改正

- 環境やレクリエーションに対する国民のニーズの多様化、社会貢献に対する意識の高まり等を背景とした公園施設の設置や管理への地域住民等多様な主体の参画ニーズに対応するためには、地域の住民団体や民間事業者等多様な主体が、より主体的に自らの判断に基づき、都市公園の整備と管理を行えるようにすることが必要であることから、Park-PFIが創設され、都市公園の利用の促進等の機能の向上、都市公園の整備・管理への住民の参画の促進、地域のニーズに対応した都市公園の整備・管理の促進、地域の活性化、住民の自然愛護や環境保護に対する意識の向上等の効果が期待されている
- 都市公園を効果的に整備・管理・活用し、持続的にその魅力を向上させていくためには、公園管理者と地域の関係者等が、密に情報交換を行い、協議しながら当該都市公園に応じた活性化方策や利用のルール等について取り決め、実行していくことが望ましく、公園管理者は、公園利用者の利便の向上を図るため、公園管理者と地域の関係者等とが必要な協議を行うための協議会を組織することができるようになった
- 今ある公園を活かす方法や官民連携の加速、公園の個性を引き出す工夫を行うことを重視すべき観点としている

●名古屋市公園経営基本方針の策定

- 名古屋市では、公園経営を「利用者志向、規制緩和等による市民・事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法の導入など、公園の利活用重視の発想により公園の経営資源を最大限に活用していく新たな管理運営の考え方」と定義し、市民・事業者・行政のパートナーシップという原動力を生かして公園経営を具体的に進めるため、公園経営の基本理念を「公園から美しく魅力輝く名古屋を創造する～利用者満足度の向上と名古屋の魅力アップ～」とし、推進の目標を「①おもてなしのサービスを具体化し、公園利用の楽しさと喜びを増やす ②公園という資産の可能性を引き出し「名古屋」の都市ブランド力を向上させる ③地域のコミュニティ、美しい景観、自然の恵みを育むパートナーシップを広げる」とした

(2) アジア競技大会を契機としたまちづくり

アジア競技大会の開催に向けて、メイン会場となる瑞穂公園等の施設整備や世界中の観客に対応したまちづくりが進められている。これらのまちづくりに関する上位計画の方針や取組等を整理した。

オリンピックを契機としたスポーツ社会の実現

アジア競技大会を契機としたスポーツを核としたビジョン再編

国・都

●スポーツ立国戦略

新たなスポーツ文化の確立を目指し、①ライフステージに応じたスポーツ機会の創造、②世界で競い合うトップアスリートの育成・強化、③スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出、④スポーツ界における透明性や公平・公正性の向上、⑤社会全体でスポーツを支える基盤の整備の5つの重点戦略を挙げている

●東京2020大会開催基本計画

- ◆ 3つの基本コンセプト
「すべての人が自己ベストを目指し」、「一人ひとりが互いを認め合い」、「そして、未来につなげよう」

●スポーツ基本計画

- ◆ 「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大
- ◆ スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
- ◆ 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備

県

●アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン

名古屋市とともに、アスリートファーストの視点を踏まえながら、簡素で質素な、そして機能的で合理的な大会を目指す

- ◆ 大会コンセプト
「アスリートファーストの視点」、「既存施設の活用」、「先端技術の駆使」、「伝統と県民・市民性に触れるおもてなし」、「アジア競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及へ貢献」

地域活性化のための基本施策 より

- ◆ スポーツで愛知をブランディングする
 - トップアスリートの育成・輩出
 - 地域のスポーツイベントの活性化（ニュースポーツ等の体験・アスリートとの交流）
 - スポーツ関連施設の有効活用の促進（ニーズに合わせた利用時間帯の見直し等により利便性の向上）
- ◆ 国際的大会、国際親善試合の招致・育成

市

●2026アジア競技大会NAGOYAビジョン

- ◆ アクティブライフの推進、健康推進
- ◆ 地域活性化、市民活動の促進
- ◆ スポーツを活かした魅力の創出・発信
- ◆ 名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信
- ◆ 大規模競技大会・イベントの誘致・開催
- ◆ 国際交流の推進、共生社会の推進
- ◆ 大会モデルの構築、大会後のまちづくり 等

健康・地域活力

魅力・誇り

国際交流・多様性

イノベーション・持続可能性

●瑞穂区政運営方針（令和元年度）

- ◆ 地域とともにすすめるまちづくりの推進
- アジア競技大会に向けた「瑞穂区ジョギングパトロール（ジョグパト）」の推進

区

(3) 瑞穂公園の現状

■法規制の状況

- ・都市計画公園（運動公園）
都市計画公園面積：30.6ha
- ・都市公園（運動公園）
都市公園面積：24.46ha
- ・国指定史跡（大曲輪貝塚）
- ・広域避難場所（地震・火災）
- ・用途地域 第2種住居地域、
第1種中高層住居専用地域
- ・高度地区（31m、20m高度地区）



出典：名古屋市都市計画情報提供サービスに加筆

■社会・自然の状況

丘陵と台地の間に立地

●立地環境

- ・八事丘陵と瑞穂台地の間を流れる山崎川の両岸に立地
- ・名古屋中心部から東南5kmに位置し、周辺に樹林地、山崎川、宅地の緑等、比較的绿色の多い環境

市内からのアクセス良好

●交通

- ・瑞穂公園から徒歩10分以内に地下鉄の駅が3駅ある。
- ・名古屋高速が2km西方に通っており、遠方からの車のアクセスもよい

桜並木が特徴的な山崎川の景観

●自然環境・景観

<山崎川>

- ・「ふるさとの川」として親しまれ、河岸には2kmにわたる桜並木は、日本さくら名所100選に指定

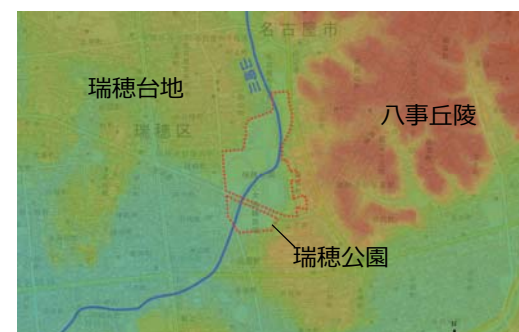
<樹林地>

- ・公園南東部の斜面には樹林地が残る。隣接地が特別緑地保全地区に指定

縄文時代から続く、長い歴史のある場所

●歴史

- ・公園のある土地は縄文時代から人々が暮らし、活動していた長い歴史がある場所
- ・現在も残っている遺跡として、国史跡大曲輪貝塚、古墳（瑞穂2号墳）がある
- ・特に、大曲輪貝塚は、国の史跡に指定されており、あたかも犬を抱いたような状態で出土した埋葬された縄文人の人骨や多くの縄文土器、石器、貝殻等が出土



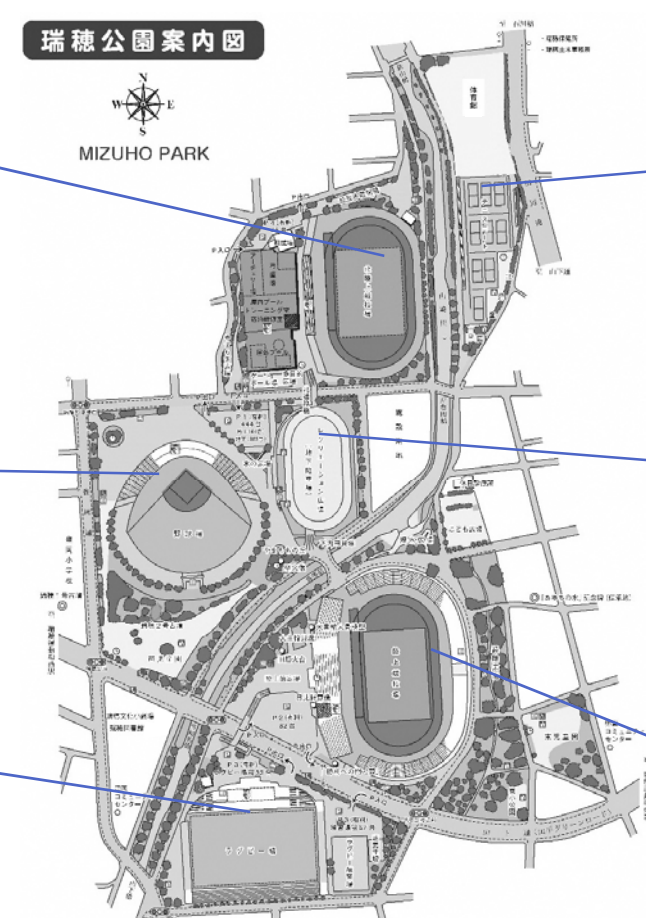
出典：国土地理院色別標高図に加筆

■有料公園施設の概況

●施設一覧

施設名	概要
陸上競技場（第1種公認）	400mトラック×8コース/天然芝コート1面/スタンド：メイン9,000人 バック18,000人 車いす使用者用50人
北陸上競技場（第3種公認）	400mトラック×8コース/天然芝コート1面/スタンド：3,000人 車いす使用者用10人
レクリエーション広場	フィールドクレー舗装仕上げ：9,000㎡/300mトラック×6コース/芝スタンド600人
ラグビー場	天然芝135m×80m/スタンド：メイン6,500人 車いす使用者用18人 バック5,400人 サイド3,100人
ラグビー練習場	人工芝：60m×40m（フットサル2面）
野球場	人工芝グラウンド/スタンド：内野6,000人 外野12,600人
瑞穂公園体育館（仮称）（※）	第1競技場 バスケットボール2面等/第2競技場 バスケットボール1面等/第3競技場 剣道2面、エアロビクスダンス等
相撲場	屋根付土俵×1面/スタンド255人
宿泊研修室等	弓道場/アーチェリー場/温水プール/練習プール（屋外）/トレーニング室/宿泊研修室
テニスコート	砂入人工芝コート×9面（硬式・軟式両用）/スタンド：1,000人
駐車場	672台（4か所）他に臨時駐車場あり

※ 令和3年度に供用開始予定



出典：パロマ瑞穂スポーツパークHPより

●沿革 ※主な大規模大会抜粋

時期	概要
昭和25年（1950）	第5回愛知県国体開催
平成6年（1994）	第49回わかしゃち国体開催
平成28年（2016）	第100回日本陸上競技選手権開催

●利用状況

大会、イベント等	実績
瑞穂公園 年間利用者数	1,394,923人（H30年度）
瑞穂区民まつり	33団体出店
サッカー Jリーグ （名古屋グランパスのホームスタジアム）	観客数137,348人 12,486人/試合（H30年度/11試合/JリーグHPより）
ラグビートップリーグ	観客数41,090人 3,161人/試合（H30年度/計13試合/トップリーグHPより）
その他イベント実績	
スポーツ・ライフin瑞穂/スペシャルオリンピックス/愛知ジョギングフェスティバル/弥富コミュニティセンターまつり/ふれあいまつり（お茶会）/保育園の夏祭り・運動会 等	

(4) 瑞穂公園の特徴と課題

瑞穂公園は、陸上競技場やラグビー場、野球場、テニスコート等多様な施設を利用できる充実したスポーツ環境を有し、さらにリーグ名古屋グランパスのホームスタジアムでもあり、名古屋市スポーツの拠点として長く市民に親しまれている。また、山崎川の桜並木や松並木、史跡の貝塚や古墳等の自然・歴史文化資源が公園内に所在している。一方で、河川や道路による動線の断や、一般利用者の利用場所が限定されている等の課題がある。そこで、市民意見や現地調査をふまえて瑞穂公園に求められることを整理した。

●瑞穂公園利用者の声（瑞穂公園全体計画タウンミーティング（令和元年5月）より抜粋）

スポーツ	- 市民が気軽に運動を楽しめる公園、スポーツの拠点として誇れる公園にしたい - 公園を一周できるランニングコースや散策路、ランニングステーションを整備してほしい - 陸上競技場は、清潔なトイレや騒音対策、バリアフリー対応等の基本的な整備をしてほしい - 陸上競技場等の施設は、イベントがない時は市民が使えるように開放したり、大人向けの健康増進イベントや体験イベント、子ども向けかけっこ教室等のスポーツイベントを開いたりしてほしい
憩い交流	- 施設や園路をバリアフリー対応とし、子どもや高齢者、障害者等の誰もが使えるように整備してほしい - 公園全体、特に緑陰広場やトイレ周辺が夜間に暗くなるため、安心して歩けるようにしてほしい - 子どもたちがアスレチックや川、樹林等で安全に遊べるあそび場やボールで遊べる場所がほしい - 明るく清潔なトイレやおむつ交換台、授乳室等を整備してほしい - カフェや売店、ランニングステーション、屋内遊戯場、屋根やベンチのある休憩場所がほしい - スポーツの試合等がない時は閑散としているため、スポーツイベントやマルシェを開催してほしい
環境自然	- 緑地を保全し、憩いの場として利用できるようにしてほしい - 山崎川の自然を活かし、川とその周辺を一体的に整備してほしい - 山崎川や緑地等を活かし、環境教育等を行えるよう整備してほしい
文化史	- 貝塚や古墳等、歴史資源を大事にした整備を行ってほしい - 子どもも名古屋の歴史に興味をもてるよう、貝塚や古墳を分かりやすく紹介してほしい - 古墳の周辺が草木で鬱蒼としているので、古墳があることが分かるように整備してほしい
防災	- 広域避難場所として必要な設備をしっかり整備してほしい - 体育館も避難所としての防災機能を持たせてほしい
交通	- 道路が公園の中を通るため歩きづらく、もっと一体的な空間になるように整備してほしい - 駐車場増設や公共交通の利用促進、駐車場の予約制やイベント時の値上げ等の渋滞対策をしてほしい - 送迎の車や観光バスが路上駐車しないよう、敷地内に乗降スペースを整備してほしい

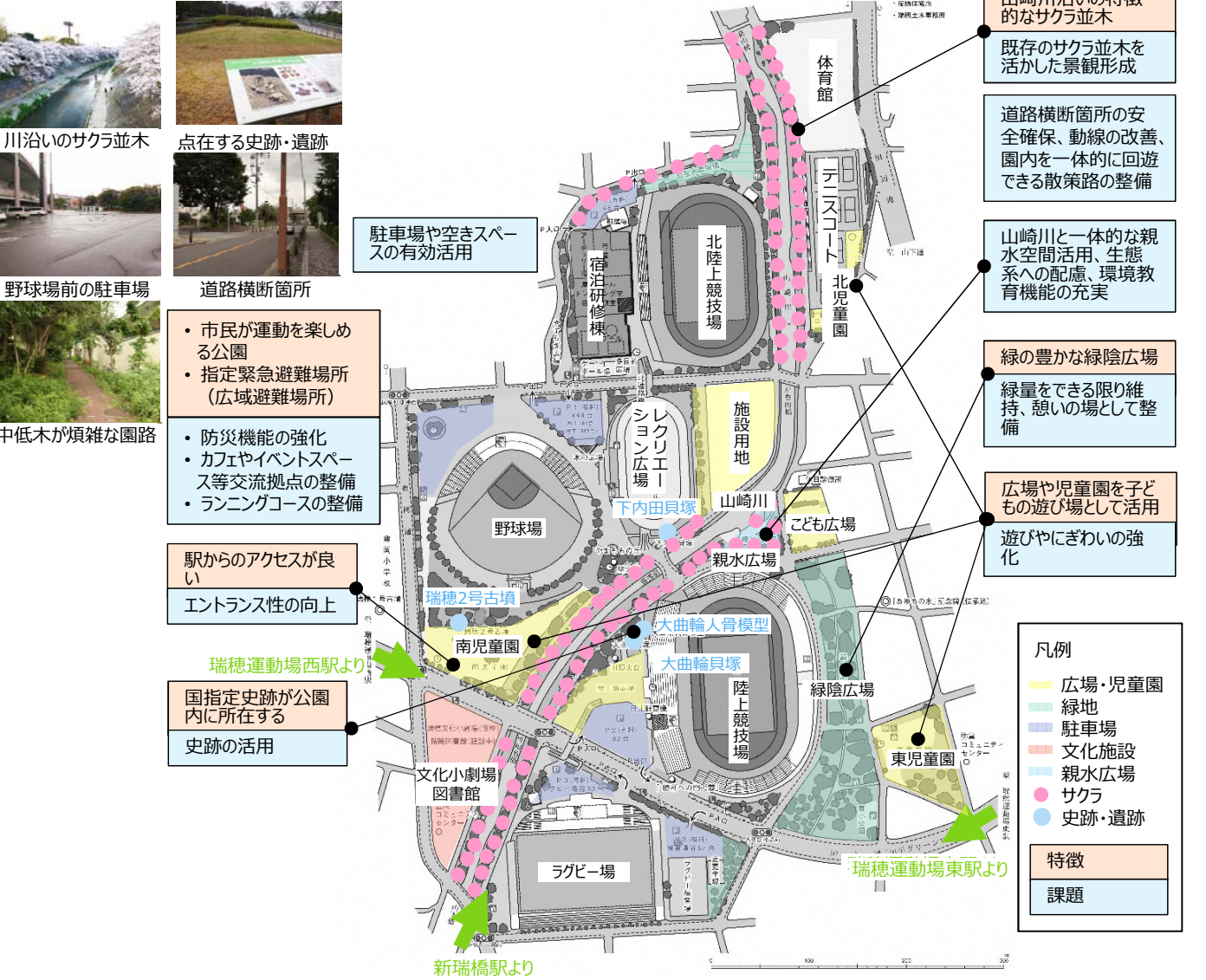
●現地調査をふまえた瑞穂公園の特徴整理

	現状の公園の魅力	現状の公園の問題点
スポーツ	- スポーツ施設の種類や規模等が充実している - 陸上競技場は、プロサッカーの試合や陸上の全国大会等で使用されている	- スポーツ施設の周囲にアップ等のできるスペースがない - ランニングコースやロッカーがない等、日常的な運動をしやすい環境が整っていない
憩い交流	- イベント、球技、遊具等、利用特性の異なる10か所の広場や児童園が整備されている - 図書館やスポーツ施設等、様々なアクティビティを通して来園者が交流できる	- 広場や児童園の施設が老朽化している - カフェ等の地域の交流スペースとなる場所がない - 閑散時の駐車場が活用されていない
自然環境	「日本さくら名所100選」の山崎川沿いのサクラや松並木が特徴的な景観を形成している - 親水広場が整備され、子どもが川で遊べる - 山崎川にはレッドデータブックに登録された生物（魚類・貝類）が生息している	- 松並木や緑陰広場等の既存の緑地が活用されていない - 山崎川や親水広場が環境教育の場として十分に活用されていない - 生物観察をできる場所が少ない
文化史	- 大曲輪貝塚等の名古屋の歴史を物語る史跡・遺跡が公園内に所在する - 瑞穂区の史跡散策路のルートの一部である - 図書館等の文化施設もある	- 縄文時代から続く長い歴史が残された場所であることが十分に顕在化されていない - 図書館や博物館等の文化施設との連携が弱い
防災	広域避難場所となる、まとまったオープンスペースである	避難誘導サイン等が少なく避難動線がわかりにくい
交通	地下鉄の3駅から利用でき、名古屋中心部からのアクセスが良好である	- 主要アクセスに対するエントランスがわかりにくい - 道路を横断しなければならない箇所がある - 各ブロックを回遊するメイン動線がない

●瑞穂公園整備に求められること

スポーツ	- ランニングコース等の気軽に運動できる施設整備や、日常時の施設開放、多世代向けのスポーツイベントの実施等、名古屋のスポーツの拠点としての機能強化が求められる - 駐車場の空きスペース等をアップスペースとして有効活用することが求められる
憩い交流	- バリアフリー対応や暗い箇所の改善、清潔なトイレの整備等、誰もが安全・安心に利用できる整備が求められる - 広場や児童園は、利用特性やニーズをふまえ、遊びや憩い、にぎわい機能を強化する整備が求められる - カフェや売店、マルシェ等ができるイベントスペース等、地域の交流の拠点としての整備が求められる - アスレチックや、川、樹林、屋内遊戯場等の子どもの遊び場の整備が求められる
自然環境	- 山崎川沿いのサクラ並木や松並木等の緑の景観を保全し、憩いの空間等として活用していく必要がある - 緑陰広場の緑地については、緑量をできる限り維持しつつ、憩いの場として整備していくことが求められる - 山崎川や親水広場では、生態系に配慮し、周囲と一体的な親水空間の活用が求められる - 環境教育の場等としてまとまった緑地や親水空間を活用することが求められる
文化史	- 大曲輪貝塚や古墳等の、歴史を物語る史跡・遺跡の価値、特徴を顕在化し、活用することが求められる - 名古屋市博物館や図書館とも連携し、名古屋の歴史に興味をもつきっかけづくりが求められる
防災	- 体育館等の避難場所利用等、防災機能の充実が求められる - 災害時にも安全・安心に避難できる避難路やサインの整備が求められる
交通	- エントランス性の向上および園内を一体的に回遊できる散策路の整備等、動線の改善が求められる - イベント時の渋滞対策および歩行者の横断対策が求められる

■特徴・課題図



(5) 瑞穂公園に期待される役割

名古屋市の特徴や先進的な取組として、スポーツの推進、自然環境の保全、まちづくりに関する事項が挙げられる。これを、名古屋市における取組と瑞穂公園および周辺地域の現況に分けて整理し、それらをふまえて瑞穂公園への期待を整理した。

● スポーツの推進に関する取組

名古屋市における取組
みんなが楽しみ、交流するスポーツ文化が根付くまち ● 多様な人々が交流するスポーツイベントの開催 世界最大の女子マラソン「名古屋ウィメンズマラソン」、車いすマラソン「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン」、障害のある人もない人も一緒に走って走る「名古屋シティハンディマラソン」の開催や、「でらスポ名古屋」の取組による市民とトップ・スポーツチームの交流等、多様な人々がスポーツを通じて交流し楽しんでいる。 ● 活発なスポーツ文化をもつ名古屋市 名古屋市には、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール等、様々なスポーツのプロ・実業団チームの拠点がある。また、市民によるチームの応援もさかんで、以前から「みる」スポーツを楽しんできた。

瑞穂公園および周辺地域の現況
時代に合わせてスポーツの機会を提供してきた名古屋市のスポーツ拠点 ● 全国・国際大会が開かれてきた陸上競技場 昭和25年の愛知国体の開催以降、わかしやち国体や日本陸上競技選手権等の全国大会、名古屋国際女子マラソン、サッカー国際親善試合等、国内外のスポーツの大会が瑞穂公園で行われてきた。国体等、特に大きな大会の機会に施設を更新しており、大会後も施設を活用し、名古屋市のスポーツ拠点となっている。 ● 知的障害のある人もない人も参加するマラソン大会の開催 知的障害のある人もない人も参加する「ジョギングフェスティバル」が瑞穂公園で開催されている。ジョギング以外にも、障害者が参加するスポーツのイベントや教室が瑞穂公園および周辺地域で行われており、スポーツを通じた交流の拠点となっている。

瑞穂公園への期待
● 「する」スポーツのさらなる推進 障害のある人もない人も、誰もが安心・安全にスポーツを楽しめるスポーツの充実を図るとともに、若者の人気が高いストリートスポーツの導入を図る等、時代ニーズに柔軟に対応していくことが期待されている。 ● 「みる」スポーツを楽しめる公園 アジア競技大会後も、陸上競技やJリーグ等の大規模な試合の開催時に誰もが安全、快適に観戦できる環境づくりとして施設のバリアフリー化等の整備が求められる。また、試合の前後を利用したイベントの開催等オープンスペースを活用した観戦をさらに盛り上げる工夫が期待されている。

● 自然環境の保全に関する取組

名古屋市における取組
市ぐるみで自然環境の保全に取り組む環境首都なごや ● 市民の声に応えた渡り鳥の中継地である「藤前干潟」の保全 ● 愛知万博、COP10、ESDユネスコ世界会議の開催 環境に関わる国際的なイベントの開催による環境意識の高まりをきっかけに、名古屋市は「生物多様性2050なごや戦略」や「なごや環境学習プラン」を策定し、市として自然環境の保全の取組を推進している。 ● 緑化地域制度による緑の創出 平成20年に、名古屋市は、市街地における緑の創出のため、一定の敷地面積以上の建築行為に対し、緑化を義務付ける「緑化地域制度」を全国に先駆けて導入した。

瑞穂公園および周辺地域の現況
風致地区がある緑豊かな地域であり、瑞穂公園の緑も良好な景観を形成している ● 地域の生態系の拠点となる瑞穂公園 瑞穂公園は、緑の基本計画で「緑の拠点」と位置付けられており、地域の中でも貴重なまとまった緑地となっている。公園内では、清掃活動や外来種の駆除、なごや生きものの一斉調査等の生態系調査が行われる等、市民が中心となった生物多様性の保全に関する取組が行われている。 ● 丘陵地の自然を活かし開発された八事丘陵の「山林都市」 瑞穂公園の東側に位置する八事丘陵は、自然環境を重視した区画整理および宅地開発が行われた。現在では風致地区に指定され、良好な住環境が評価、保全されている。

瑞穂公園への期待
● 生態系に配慮した整備 瑞穂公園が生物の生息地となっていることをふまえ、整備による生態系への影響を考慮し、生息地を保全していくことが期待される。現在、瑞穂公園が調査地のひとつとなっている生きものの一斉調査等が継続できるような整備を行い、来園者が地域の自然環境に対して興味を持てる場を提供することが期待される。 ● 緑の景観の維持 風致地区のある瑞穂区にふさわしい、山崎川やサクラ・松並木、住宅の庭等、周囲の緑と調和した景観を維持していくことが期待される。

● まちづくりに関する取組

名古屋市における取組
先進的な施策を取り入れた整備、その一方で歴史を大切にすまち ● 官民連携等、先進的かつ計画的な都市公園整備の推進 名古屋市は、民設民営の公園施設「トナリノ（名城公園）」の導入や久屋大通公園における大規模なPark-PFIの運用など、官民連携の取組を推進している。 ● 名古屋市歴史まちづくり戦略 名古屋のまちは、熱田の杜から清須越し、産業都市化、戦災からの復興など、幾多の歴史を積み重ねながら発展してきたまちであり、各地域には様々な歴史的資源がある。この地域の歴史的資源を活かした魅力的な都市環境の維持・形成を目指している。

瑞穂公園および周辺地域の現況
住民の協力による地域環境の整備と名古屋の歴史の始まりに触れる公園 ● 住民と行政の協力によってつくられた瑞穂公園と山崎川のサクラ並木 瑞穂公園は、瑞穂耕地整理組合等の3組合が用地を出し合って誘致され、山崎川のサクラ並木は、石川土地区画整理組合による河川整備の際に植栽された。組合事業は、組合員である住民によって行われるものであり、瑞穂区を代表するパブリックスペースは住民と行政の協力によって作り上げられたといえる。 ● 名古屋の歴史のはじまりに触れることのできる公園 瑞穂公園内には、国指定史跡である大曲輪貝塚を始め、瑞穂2号墳、下内田貝塚など縄文時代から古墳時代の遺跡が存在する。

瑞穂公園への期待
● 官民連携による整備 官民連携による公園の整備・運営は、全国的に推進されており、近年名古屋市でも導入が進んでいることをふまえ、瑞穂公園の整備においても、官民連携の導入を検討していくことが求められる。 ● 市民とともに整備する公園 市民とともに、市民が交流できる場を整備し、地域のコミュニティの拠点を目指すことが求められる。 ● 遺跡の大切さを感じることのできる公園 国指定史跡である大曲輪貝塚を始めとする遺跡の特徴や魅力を顕在化し、遺跡の大切さや保存の必要性を来園者に感じてもらうことが求められる。

(6) 瑞穂公園整備の方向性

ここまでにとりあげた瑞穂公園に関する基本条件を整理し、瑞穂公園整備の方向性を抽出した。

瑞穂公園の関連計画から

スポーツを核とした 地域活性化

大規模なスポーツ大会等を誘致し、にぎわいを創出する地域活性化の拠点

市民がより 安心・安全に 利用できる施設整備

安心・安全な利用のため、公園全体と公園内の施設を適切に保全

指定緊急避難場所 (広域避難場所)

災害時に求められる機能を満たす整備

公園行政の動向から

みどりの 多面的効果の発揮

地域の特性やニーズをふまえた多面的効果の発揮

官民連携の加速化

より効率的・魅力的な公園運営を行うための官民連携の導入

柔軟な公園活用

大会やイベント利用等場面に応じた柔軟な公園活用

アジア競技大会を契機とした まちづくりの視点から

スポーツによる 健康増進と 地域活性化

スポーツを通じた健康増進と地域活性化につながる地域のスポーツの拠点

スポーツを 名古屋のブランドの ひとつにする

アジア競技大会を通して、スポーツを名古屋のブランドとして確立するための拠点

国際交流と 共生社会の推進

アジア競技大会をきっかけに訪れる国内外の人が、快適に過ごせる環境整備

大会モデルの構築と 大会後のまちづくり

グリーンインフラや先端技術の導入等、大会後の活用を見据えた整備

瑞穂公園の特徴と課題から

名古屋の スポーツ拠点に

スポーツ施設のさらなる充実や運動のきっかけを提供する運動公園機能の充実

地域の交流拠点

イベントスペースやカフェ等の交流の場を地域の交流拠点として整備

水と緑の景観を 保全する

山崎川の親水機能やサクラ・松並木等の資源を魅力ある景観として保全

名古屋の歴史を知る きっかけづくり

史跡・遺跡の価値や特徴を分かりやすく見せることや、文化施設との連携による名古屋の歴史を知るきっかけづくり

瑞穂公園に期待される 役割から

誰もがスポーツを 楽しめる場所を 目指す

誰もがスポーツをやってみたくなる環境や、「する」「みる」スポーツを楽しめるしかけの整備

市民とともに 整備する公園

市民とともに、市民が交流できる場を整備し、地域のコミュニティ拠点とする

自然環境や 緑地を保全する

地域の生態系の拠点としてまとまった緑地や河川環境を保全し、環境教育の場とする

遺跡の大切さを 感じる

遺跡の特徴や魅力を顕在化させ、遺跡の大切さや保存の必要性を市民に感じてもらう

瑞穂公園整備の方向性

スポーツによるにぎわいの創出

名古屋におけるスポーツの聖地としての整備とともに、市民の健康づくりにも資する整備を目指す

市民の交流・憩いの場

市民とともに、居心地のよい安全な空間づくりに取り組み、まちづくりを見すえた整備を目指す

自然環境の保全と活用

都市の貴重な緑の拠点を保全するだけでなく、自然環境に関心を持ってもらえる整備を目指す

名古屋の歴史のはじまりに 触れる

遺跡の特徴や魅力を顕在化させ、遺跡の大切さや保存の必要性を市民に感じてもらう整備を目指す

(1) 整備イメージ

瑞穂公園整備の方向性に基づき、公園整備のイメージをまとめる。4つの方向性の重ね合わせが公園整備全体の考え方となる。

スポーツによるにぎわいの創出

「する」スポーツ＝アマチュアスポーツ、ジョギング等軽運動、健康づくり 等

「みる」スポーツ＝スポーツ大会観戦、国際大会、全国大会 等

【 目指す姿 】

- プロスポーツからアマチュア競技まで利用できるとともに、市民が日常的なジョギングやテニス、ストリートスポーツなどで交流し気軽に健康づくりができる空間とする。
- 陸上競技場を建て替え、より多くの市民に対して、スポーツ大会などの観戦により本格的な競技を体感できる機会を提供し、スポーツへの興味・関心を高めてもらえる空間とする。
- アジア競技大会を始めとした国際大会や全国大会を開催し、国際的なスポーツの拠点へ躍進し、スポーツによる都市ブランドの確立を図る。

【 整備の方向性 】

■「する」スポーツ

スポーツ施設周辺のオープンスペース

- 選手のアップスペースやチームの滞留スペースとして利用できる空間とする。
- 選手による使用だけでなく、観戦者の滞留や動線も考慮し、より快適に大会を行うことができる環境にする。

スポーツ施設の保全

- 既存施設を適切に保全し、安心・安全に使うことができる施設として維持する。

体育館の建設

- 体育館（令和3年開館予定）を整備し、屋内スポーツの充実を図る。

市民の健康づくり

- 健康遊具の設置やジョギングコースの設定など、公園内で気軽に健康づくりができる環境にする。

■「みる」スポーツ

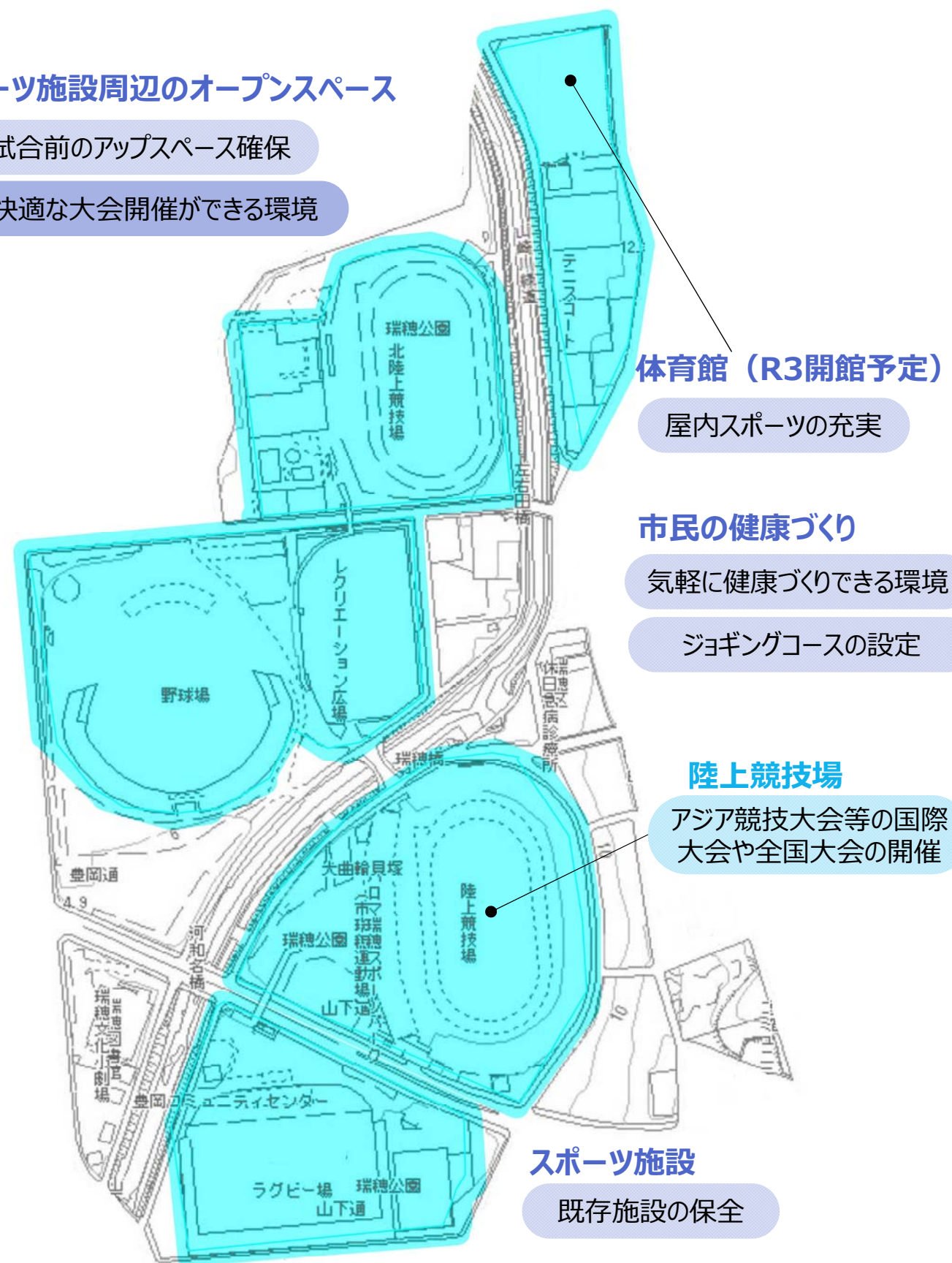
陸上競技場

- 競技者と観客の一体感を創出し、アスリートが最高の力を発揮でき、また、観客が本格的なスポーツを体感できるようにする。
- 年齢や障害の有無などに関わらず、誰もが安心・安全で快適に競技、観戦できるようにする。
- 瑞穂公園の自然環境、歴史文化と調和した競技場とする。

スポーツ施設周辺のオープンスペース

試合前のアップスペース確保

快適な大会開催ができる環境



体育館（R3開館予定）

屋内スポーツの充実

市民の健康づくり

気軽に健康づくりできる環境

ジョギングコースの設定

陸上競技場

アジア競技大会等の国際大会や全国大会の開催

スポーツ施設

既存施設の保全

(1) 整備イメージ

市民の交流・憩いの場

交流＝児童園、イベント、花壇、パークマネジメント活動 等

憩い＝広場、バリアフリー、安心・安全 等

【 目指す姿 】

○市民とともに、居心地のよい安全な空間づくりに取り組み、日常利用に加えイベント時にも活用できるにぎわいの場を創出する。

○雑木林や水辺、サクラ並木や松並木等の花木の特性に応じた多様なみどりを楽しめる環境を活かし、ジョギングや散策などを楽しめるサードプレイスとして、公園利用者にとって心地よい憩いの空間とする。

【 整備の方向性 】

■ 交流・・・世代を超えて楽しめる公園

パークマネジメント活動

- 市民が参加した公園づくりや公園の活用を行う。

施設用地

- 山崎川に面した広がりのあるスペースを、交流や憩いのスポットとする。
- あらたな交流の場として、にぎわいの創出を図る。

宿泊研修室等

- リノベーションにより新たな地域交流拠点を創出し、市民とともにまちづくりを推進するための場とする。

南児童園

- 市民が気軽に集えるファミリー向けの公園とする。
- 芝生化するとともに、遊具・健康増進器具・屋根付き休憩スペース等を設置する。

東児童園

- 地域の身近な子どもの遊び場となるよう、傾斜を活かしたアスレチック公園とする。
- 芝生化するとともに、遊具等を設置する。

北児童園

- 芝生化するとともに、遊具等を設置する。

陸上競技場前広場

- 陸上競技場未使用時に、新たな交流スペースとして市民が活用できるようにする。

■ 憩い・・・日常的に行きたいと思える公園

バリアフリー

- 散策路等を誰もが安心して利用できるようバリアフリーとする。

緑陰広場

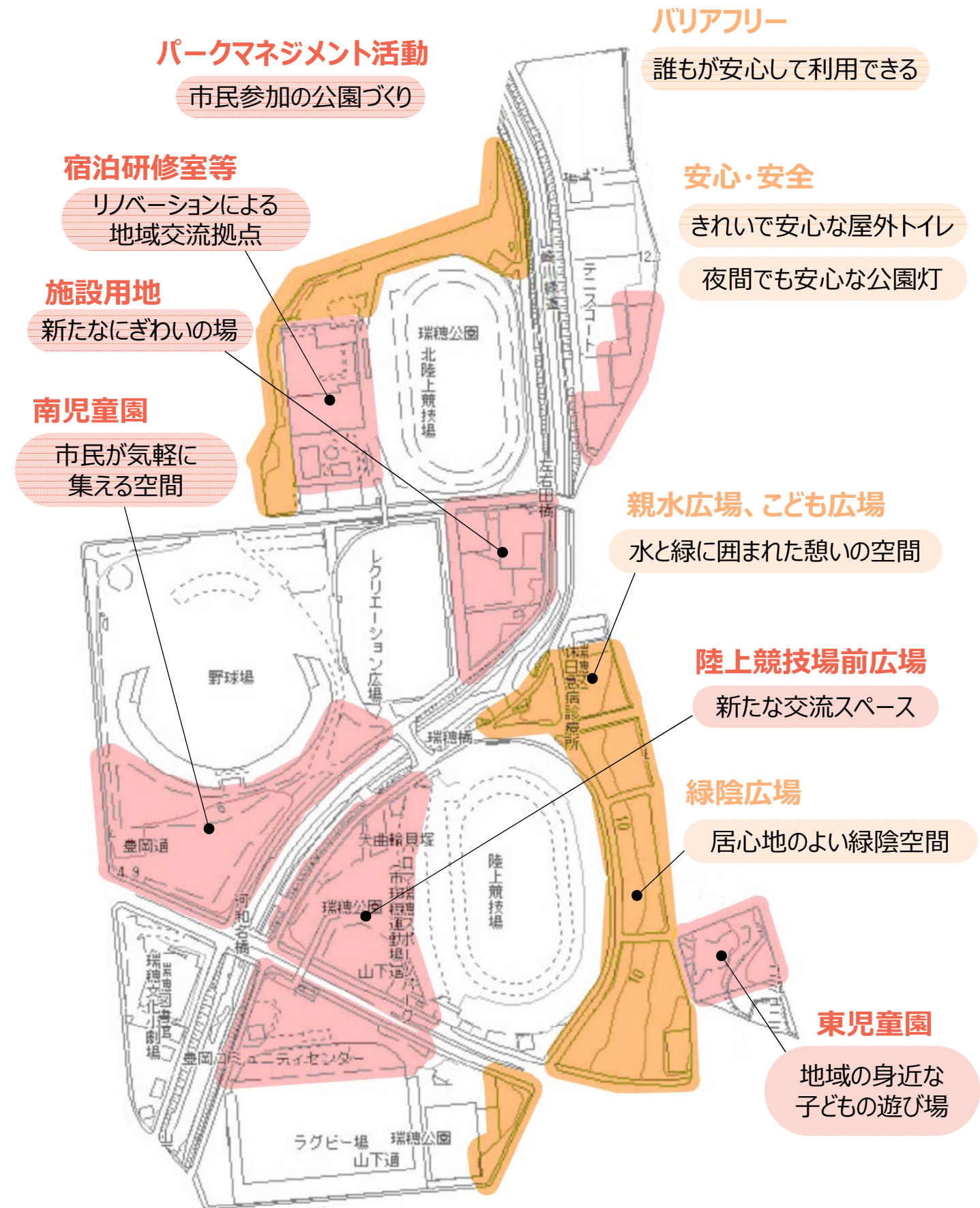
- 居心地のよい緑陰空間を保全しながら、憩いとやすらぎの場として、親しみを持たれるようにする。

親水広場、こども広場

- 親水環境とサクラの樹林景観を維持しながら、環境教育等の活用を図る。

安心・安全

- きれいで、安心して使うことのできる屋外トイレを改修する。
- 夜間でも安心して公園を利用することができるように公園灯を配置する。



(1) 整備イメージ

自然環境の保全と活用

【 目指す姿 】

- 公園内の各地に配置された緑をネットワーク化し、都市の中のまとまりある緑として、「緑の拠点」を保全する。
- 公園内の散策やジョギングなどの利用を通じて、自然環境に関心を持ってもらえる空間とする。
- サクラの名所とともに川を楽しめる公園として山崎川の親水性の向上を図る。

【 整備の方向性 】

外周緑地の連続化

- 緑豊かな街路景観の形成と公園内の快適性や安全性を高める見通しを確保するとともに、周辺の住宅地への騒音等を軽減する機能等を考慮して連続化を図る。
- 外周部の緑と、公園内のまとまりある緑や山崎川沿いの緑、公園東側の民有地の緑とをつなぎ、緑のネットワークを形成する。
- 山崎川沿いのサクラ並木は、花見の名所となっており、健全なサクラ並木の維持に努める。

まとまりある緑の保全・活用

- 緑陰広場や古墳周辺緑地は、公園の中でも大きく成長したまとまりある樹林が残されており、現況の緑量をできるだけ維持しながら適正な間伐や下草刈りを行い、快適な公園利用と生物多様性保全、緑豊かな景観形成を図る。
- 緑陰広場は、クスノキ、コナラ、ケヤキ等多様な樹種からなる広葉樹林が形成されており、春の渡りの時期に立ち寄る野鳥などの生き物にも配慮した植生管理を行う。
- 緑陰による夏場の避暑や景観的なやすらぎ、二酸化炭素吸収等の効果を発揮する市街地のクールスポットとしての形成を図る。
- 散策やジョギング、自然観察等を通じて、自然環境に関心を持ってもらえるようにする。

水辺空間を活かした親水性の向上

- 山崎川と親水広場を環境教育等に活用する。
- 山崎川自体を楽しむことができるように、市民や関係局と連携しながら公園と山崎川の一体感を高めていく。



名古屋の歴史のはじまりに触れる

○国指定史跡大曲輪貝塚や瑞穂2号墳等、公園内に所在する遺跡を適切に保存するとともに、それらの特徴や魅力を顕在化させる。

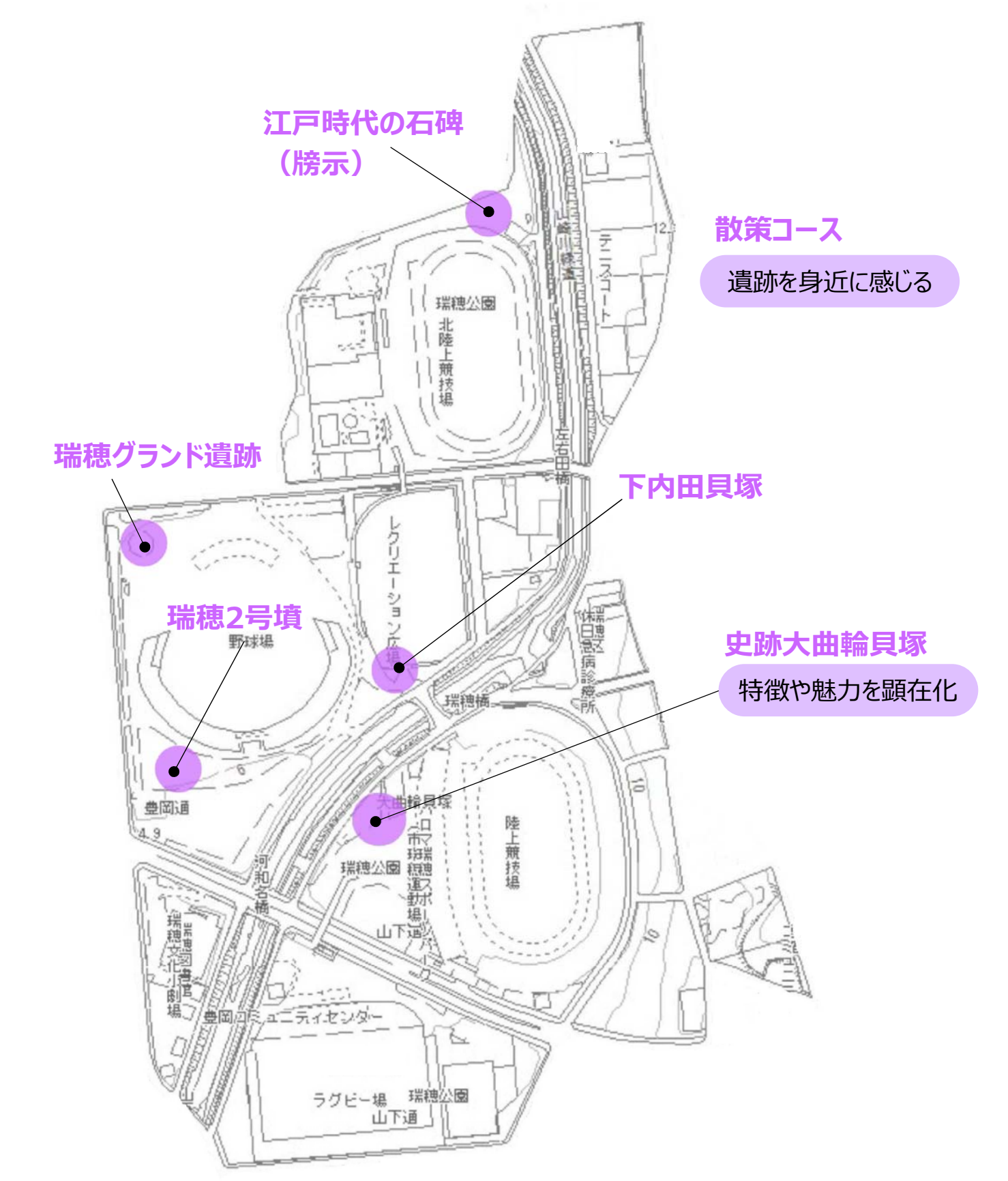
○日常的な公園利用の中でも史跡・遺跡を知ることができるようにし、より多くの公園利用者が名古屋の歴史のはじまりに触れ、身近に感じてもらえるきっかけとなる空間とする。

遺跡の魅力向上

- 史跡大曲輪貝塚保存活用計画をふまえ、大曲輪貝塚をはじめとする公園内の遺跡の特徴や魅力を顕在化させる。
- 史跡・遺跡からの出土品や解説パネルを展示し、名古屋の歴史に関する情報を発信する。
- 広場を設けるなど、歴史文化に触れることのできるイベントを開催できるようにする。

散策コース

- 公園内の歴史や自然をめぐる散策コースを設定し、名古屋の歴史の始まりに触れ、遺跡を身近に感じてもらうきっかけとする。



(2) まちづくりの取組み

公園への車両アクセスおよび公園内の駐車場の現況と課題を整理し、渋滞緩和策として基本方針とハード面・ソフト面から対策例を示した。また、瑞穂公園が広域避難場所に指定されていることをふまえ、瑞穂公園に期待される防災機能について整理した。

■ 交通・アクセスに関する取組

瑞穂公園の交通の概況

- 瑞穂公園から徒歩10分以内に地下鉄の駅が3駅ある。
- イベント開催時に渋滞が発生（ただし、公園周辺の4交差点の交通処理は良好）

課題

- イベント開催時の観客、送迎の駐車対策が必要
- 事前予約制や交通誘導等、ソフト面の対策が必要
- 駐車場情報表示や駐車場の増設、導入路整備等、ハード面の対策が必要
- 駅から瑞穂公園までの雰囲気づくり

交通対策の基本方針

- 近隣住民や公園利用者に最大限の配慮をする
- 運用面の工夫と整備を組み合わせた対応を図る

【対策（例）】

- 地下駐車場の整備
- 駐車場導入路や入口の整備運用の検討
- 駐車場情報板の設置
- 公園内自転車駐車場の整備
- 公共交通機関の利用促進（駅から公園までの仕掛け）
- 近隣駐車場と連携
- 駐車場の事前予約制を導入
- イベント時に駐車料金の値上げや後払い制を導入する等、運用の改善
- 送迎車両対応として30分駐車無料制の導入 等

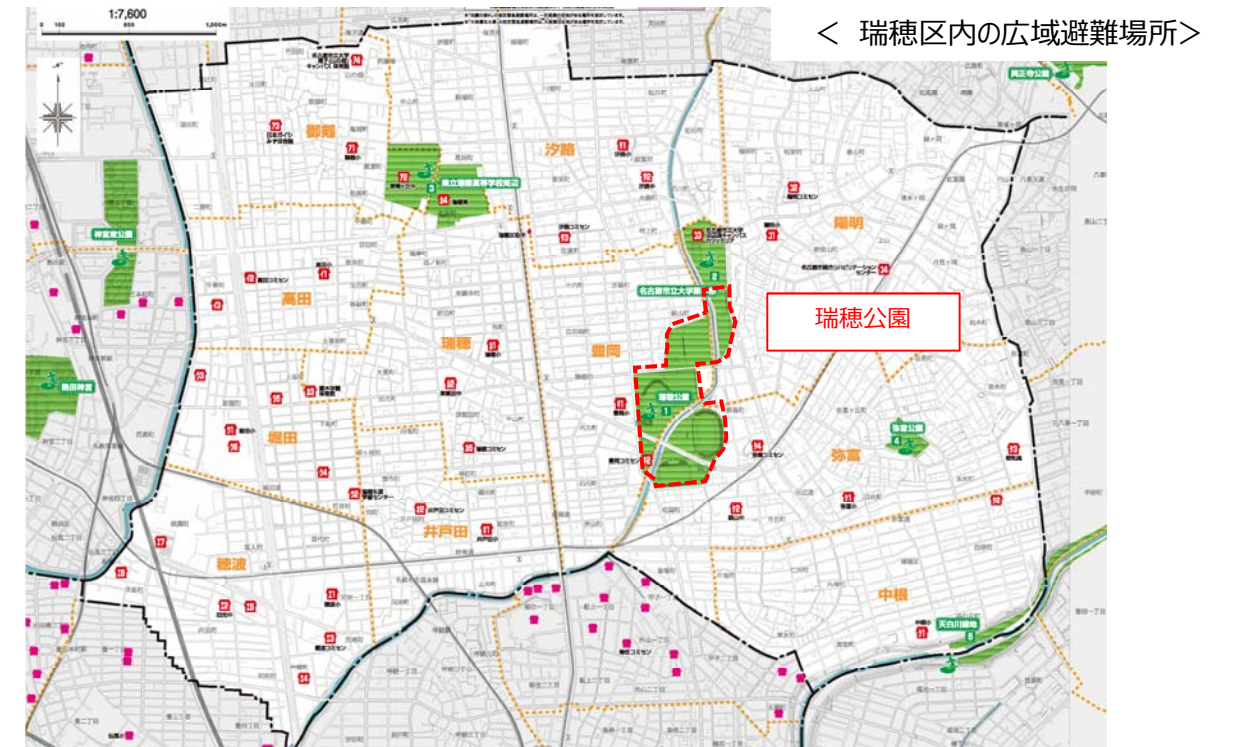


出典：© NTT空間情報に加筆

■ 防災に関する取組

瑞穂公園の広域避難場所指定

- 指定緊急避難場所（広域避難場所）に指定
- 瑞穂区内では全部で5箇所が指定されており、瑞穂公園は名古屋市立大学薬学部とあわせて区内でまとまった広域避難場所



出典：ナゴヤ避難ガイド[瑞穂区版]に加筆

瑞穂公園の防災機能

公園敷地

指定緊急避難場所（広域避難場所）

- 地震の揺れ、大規模な火災発生時の避難場所に指定
- 応急給水施設等の整備

南児童園

防災公園設備

- かまどベンチ
- 防災パーゴラ



体育館（R3開館予定）

緊急物資集配拠点

- 屋内の緊急物資集配拠点として活用可能

(3) 公園整備のための行政手続き等

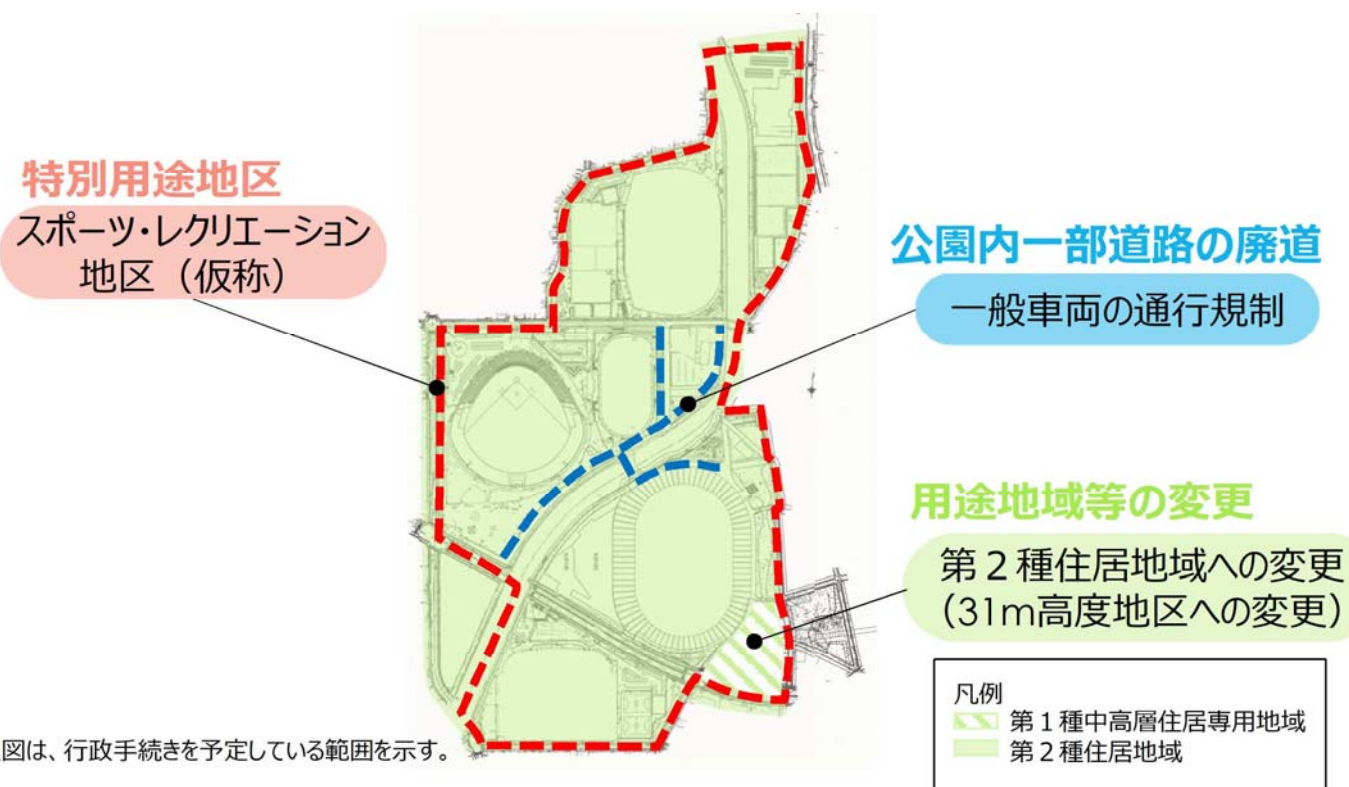
瑞穂公園の整備にあたり、期待される役割を実現し、より質の高い空間を確保していくための行政手続き等を整理した。

【 背景 】

- ・ 国際的な大規模スポーツ大会の開催や、新たなスポーツの台頭、「する」スポーツから、観戦・応援する「みる」スポーツ、スポーツを身近に感じ関わる「ささえる」スポーツへの広がり等、スポーツをめぐる環境が大きく変化している。
- ・ 瑞穂公園は、アジア競技大会後も大規模大会を誘致・開催すること等により、にぎわいを創出し、名古屋の魅力向上につながる運動公園を目指している。
- ・ スポーツを幅広く捉えた利便性の高い施設の充実を図り、市民の健康の増進及び交流の促進に資する地区を目指す。

【 手続き等 】

- ・ 公園内一部道路の廃道により、一般車両の進入を抑制して、安全で快適な公園としての空間を創出し、公園利用者が安全に利用できるようにする。
- ・ 特別用途地区「スポーツ・レクリエーション地区（仮称）」を都市計画決定し、観覧場及び駐車場の用途制限を緩和する。
- ・ 公園整備の進捗に伴い、一部用途地域等の変更を予定する。
- ・ 必要条例を改正し、運動・教養施設等の建築面積の割合、運動施設の敷地の割合を緩和する。



(4) 公園整備・運営の手法

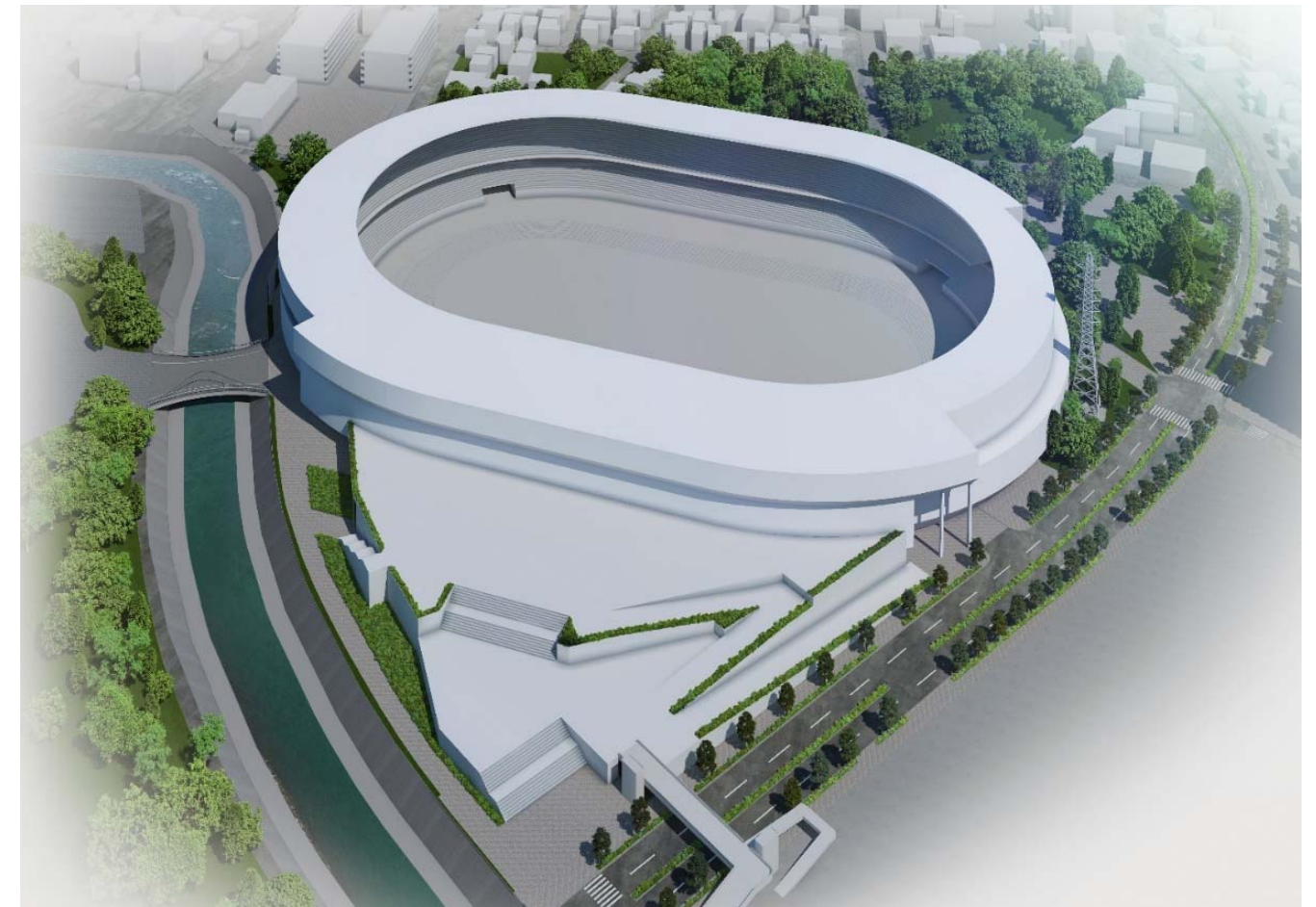
瑞穂公園の整備と管理運営を一体的に実施するための手法について整理した。

【 背景 】

- ・ 民間活用の手法として、「旧那古野小学校施設活用事業」をはじめとする既存施設を利用したリノベーション型活用が広がりをみせている。
- ・ 地域住民等が参加した公園の魅力づくりが各地で行われている。

【 手法 】

- ・ PFI方式により、公園利用者の利便性向上を図りながら、公園の管理運営と一体となった全体整備を目指す。
- ・ リノベーションにより、宿泊研修室の再生を目指す。
- ・ 市民・行政・民間企業等が連携した公園づくりを目指す。



新陸上競技場のイメージ（南西上空より）